令和３年12月28日

環境放射能水準調査結果（令和３年12月速報値）について

【要旨】

国庫委託事業「環境放射能水準調査」の測定結果について、**放射性セシウムは下記のとおりで、健康に影響のあるレベルではありませんでした。**

なお、放射性ヨウ素も不検出でした。

○　毎月調査

- **月間降下物（盛岡市、10/1～11/1採取）：不検出**
- **月間降下物（盛岡市、11/1～12/1採取）：不検出**

１　調査の概要

本県は、文部科学省の委託を受けて昭和62年から降下物や大気浮遊じんのほか、農林水産物や土壌等の調査を定点で定期的に実施しています。

この調査では、平常時における極微量の放射性物質の推移を把握する目的で実施しているため、原発事故後の緊急調査よりも高感度な測定方法が指定されています（緊急調査に比較し、試料量が約50～100倍、測定時間が約10倍で、定量下限値は100分の１程度)。

２　測定結果

(1)　**月間降下物**※1（盛岡市：環境保健研究センター屋上）

10月期　放射性セシウム　不検出（放射性ヨウ素　不検出）

11月期　放射性セシウム　不検出（放射性ヨウ素　不検出）

【健康への影響】

原発事故後の平成23年３月から令和３年11月までの128月間においても、降下物による50年間実効線量※2は**0.213**ミリシーベルトで、国が追加被ばく量の長期的な目標とする「年間１ミリシーベルト以下」に比べて低い。

〔参　考〕

※１：月間降下物

１か月間に採取した雨やちり等の降下物について、単位面積あたりの放射性物質の量を測定するもの。

※２：50年間実効線量

国際原子力機関（IAEA）　の被ばく評価方法で、国が用いているもの。

その場所に、仮に 50 年間滞在した場合の、土壌からの再浮遊に由来する吸入被ばくと、土壌からの外部被ばく線量の積算値。

詳細は項目別測定結果（別紙）のとおり

【担当：環境保全課環境調整担当　内線5356】